

勤務時間のブラックボックス化を考える 一勤務時間の記録は何のためか一

最近の報道で、「公立小中学校の教員6人に1人が勤務時間の過少申告を求められていることが分かった」とされ、勤務時間の過少申告が今、改めて話題となっています。

■正直に申告できない

報道によれば、ある教員は「正直な時間を報告すると面倒なことになるので、短い時間を報告してくれと教頭から求められた」とのこと。また、ある教頭は「校長から調整して報告するよう指示されたこと、80hを超えると、産業医の面談の為に授業を休まなくてはいけなくなることから、職員の勤務時間を改ざんした」とのことでした。

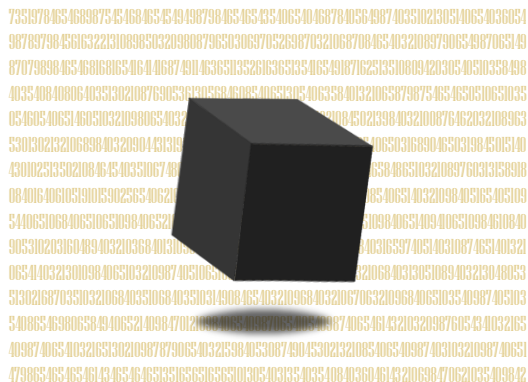
■勤務時間を記録する意味

管理職は、職員の健康確保のため、職員がどのくらい働いているのかを把握する義務があります。また、教育委員会は、このデータを集計して、教職員の多忙化解消の検討に活用しています。

■過少申告の何が問題か

教育研究家の妹尾昌俊さんが、「タイムカード等は、ダイエットしたい人にとっての体重計と同じ」と例えました。一人一人の勤務時間の記録が、働き方を考える上でのバロメーターであり、正しい勤務時間を把握することが、働き方改革に繋がっていきます。

また、正直に申告しなかった場合、万が一体調を崩して公務災害を申請しても、長時間勤務が認められないこともありえます。



■職員の皆様へ

自分の疲労は自分にしか分かりません。
自分の勤務時間も自分にしか分かりません。
自身の勤務時間をブラックボックス化させないためにも、正しい勤務時間を記録しましょう。

■管理職の皆様へ

「働きやすい環境づくり」には、職員一人一人の業務の負担を正しく把握し、実際に、負担軽減のための工夫等に取り組むことが大切です。偽りの記録は、見かけ上の勤務時間は減らしても、実際の職員の負担までは減らしてくれません。

ですから、過少申告を指示したり、長時間勤務に該当しないように記録を改ざんしたりしてはいけません。

管理職の皆様には、職員の正しい勤務時間を把握し、「なぜ長時間勤務となっているのか」、「負担軽減のためにどうすれば良いのか」等を、学校全体で考えるツールとして活用して下さるようお願いします。



- ・勤務時間の記録の目的は ①職員の健康管理、②働き方改革のバロメーター。
- ・働き方改革は、職員の正しい勤務時間を把握するところからスタート。
- ・正しい勤務時間の記録は、学校全体で働き方を見直す上でのツールになる。